



岐阜勤労者医療協会の 新入職員です

よろしくお願ひします

今年度も岐阜勤労者医療協会に新入職員として11名、昨年度の中途入職者含めると19名の職員が新たに入職しました。

医師2名・看護師4名・薬剤師1名・理学療法士3名・作業療法士1名・介護福祉士3名

3名・介護支援専門員1名・ヘルパー4名

私たちの組織の理念の実現のために一人ひとりの人間として成長できるように、地域のみなさんとともに学び育ちあいたいと思います。

(岐阜勤労者医療協会専務)

HP(ヘルスプロモーション)に取り組みよう

みどり病院とすこやか診療所は先日、国際HPHネットワークおよび日本HPHネットワークへの会員登録を行いました。あまり聞きなれない言葉ですが、HPHとは **Health Promotion Hospital** (ヘルス・プロモーション・ホスピタル) の略で健康増進活動拠点病院のことを言います。

生活支援』のみならず、『地域の健康増進に貢献すること』を自らのもう一つの重要な役割だと考えています。

様々な研究によって、健康を左右する要素として①たばこ②アルコール③他者とのかわりの多寡④貧困の影響は明らかであると言われています。

地域の健康づくりへの貢献を目指して

下の図に示されるように、ある人の健康が増進し生活の質(QOL)が高まるには

- ①その人自身の知識・価値観
- ②専門家や周りの人のサポートによるライフスタイルづくり・健康教育
- ③健康的に過ごしやすい環境や制度づくり

健康について 病院や診療所が果たす役割とは?

従来より、病院や診療所は『病気の診断や治療』の役割に重きを置いていたこともあつてか、健康な人には無縁なところだと思われていないでしょうか。

一方で病院や診療所には、健康に関してアドバイスができる専門家(医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・リハビリスタッフ・ソーシャルワーカーなど)が多く働いている場所でもあります。病院や診療所が持っている多くの知識や人材などをうまく活用できれば、地域の健康増進に大きく貢献できると思いませんか。

今、みどり病院とすこやか診療所は『病気の診断と治療、

『健康』ってなに? とところで皆さん、『健康』ってなんでしょか。病気がなければ健康でしょうか、一度病気にかかってしまったらその人は



みどり病院小児科医の日野医師がお子さんの予防接種に来院(現在育休中)

もう健康ではないのでしょうか。

病気や障害などがかかえていても、仕事や趣味などに取り組む、生き活きと生活している方々は大勢いらっしゃいます。その方々を健康ではないということには、なにか抵抗を感じますよね。『健康』とは、病気や障害があるかないかではなく、一人ひとりが生きがいを持ち、充実した毎日をできるだけ長く過ごせるという『生活の質(QOL)が高い状態』だと捉えると良いのかもしれない。

(みどり病院大橋事務局長)



遅まきながら『苦海浄土』(三部作。石牟礼道子著)を読み進めています。水俣病を告発する小説として、すでに古典的な名著であり、あくまで水俣病患者の立場にたち、創作でありながらその真実の声を聴くことができず、40数年前も、大学のサークルで公害問題についての学習をすすめていて、当時に水俣病は過激な反対運動も生まれて、大きく社会問題化していました。しかし、十分水俣病の患者の悲惨な状況に寄り添うことができず、その本質を理解することはできなかったようです。水俣病の原因はチツン水俣工場の有機水銀を含んだ排水であり、政府と企業はその説明を遅らせました。差別的な患者切り捨ての問題が、今もまだ解決を遅らせています。高度経済成長のなかで4大公害が発生しました。多くの人が家族をうしない、苦しみが亡くなつていきました。長い裁判の結果、ようやく救済の道が開かれました。しかし、政府や企業の体質は殆ど変わっていません。3・11福島での膨大な放射能汚染は、人々のあたり前の平和な暮らしを奪いました。しかし東京電力は、その住民の苦しみに寄り添うことなく、その責任から逃れようとしています。今年、富山で東海北陸共同組織活動交流会が九月に開かれます。あの『イタイイタイ病』のこと、もっと深く学ぶことができると思っています。(K)

